



# 「この重み受け止めて」

## ～1万1668人の署名、NTT西日本に提出～

年明けに取り壊しにかかり3月末までに撤去する、というNTT西日本の方針を受けて始めた旧海軍格納庫取り壊し阻止の署名活動は、多くの鈴鹿市民、三重県民、さらに全国の人々の共鳴、賛同を得て、1万1668人(1月17日現在)の署名が集まりました。年末、共同代表の加藤二三子と竹内宏行が署名簿を大阪のNTT西日本本社に届けるとともに、鈴鹿市と都市再生機構(UR)にも結果を報告、署名の重さを受け止めてほしいと訴えました。

さまざまな人たちから署名をしてくれた人たちは次のような方々です。

- ・軍都として誕生した鈴鹿市の象徴、原点と考え、保存を願う多くの市民、
- ・県民かけがえのない戦争遺跡として平和教育の場に、と考える教育関係者
- ・格納庫に隣接するNTT研修センターの多様な体育施設を活かして市のスポーツ拠点にしようと願うスポーツ関係者
- ・鈴鹿海軍航空隊の跡に立地し、格納庫を見ながら暮らしている旭が丘小学校区の人たち
- ・小栗監督の映画「埋もれ木」の撮影に協力した市民ボランティアたち
- ・鈴鹿海軍航空隊で訓練し、多くの同期、先輩、後輩を戦地になくした人たち
- ・勤労学徒動員で格納庫に隣接した三菱重工三重工場で働いた人たち
- ・この研修センターで学んだNTTのOBたち
- ・知覧特攻平和会館(鹿児島県南九州市知覧町)など各地の平和ミュージアムの来館者
- ・戦争遺跡の保存・活用に取り組んでいる人たち
- ・文化財の保存に取り組んでいる人たち
- ・スクラップ&ビルドでなく、活かして使う時代と考える建築関係の人たち

鈴鹿市が軍都として誕生したこと、鈴鹿市にそんな巨大格納庫があったこと。そんなことを初めて知った、という市民も多く、存在を認知してもらう機会となりました。



全国から集まった署名

2010年12月22日「中日新聞」

# NTTは部長が応対 移転案を提示

共同代表の2人がNTT西日本本社に届けたのは12月22日。昨年5月、10月に次いで3度目の訪問。これまでは不動産企画室の担当課長が相手をしてきましたが、今回は「上司です」と名乗って同室の担当部長が課長とともに応対してくれました。

「この重みを受け止めてほしい」と署名簿を手渡すと、部長は「真ん中の(第4格納庫)1棟は解体する際、部材を保管、NTTの敷地内に移転する。解体・保管の費用は当方が持つ。その先の費用については未定」と「移転案」を提示してきました。

市長選前の撤去は凍結してほしいと要望しましたが、「10月に区画整理事業を着工するので、逆算すると3月末までに撤去する必要がある」と課長が回答されました。

## 「市長が代わっても方針変わらず」と副市長

2日後の24日、角南副市長(富田企画課長、今田文化課長が同席)に署名簿のコピーを見せて結果を報告。3月末までの取り壊しをやめてくれるよう、NTTに要請してほしいと要望しました。これに対し、角南副市長は「NTTに要望するつもりはない」と断言。「財政難の折、たとえ、市長が代わろうと、(格納庫の撤去を容認する)これまでの方針は変わらない。市議会でも言ったように、保存、活用にまわすお金はない。議員も市民も理解してくれている」と、持論を展開された。角南氏は国土交通省から出向してきている副市長。民意を問う機会である選挙を、そして民主主義を軽視するような発言にびっくりしました。

同日、名古屋のUR中部支社にも署名簿のコピーを見せて報告しました。いろんなやりとりの中で、事業計画チームのチームリーダーは「保存するかしないかはNTTが判断すること。一般論として、仮に保存の方向が出されれば、そのように絵を描き直すことになる」と話していました。

NTT西日本が格納庫取り壊しの方針を打ち出したのに対し、「戦争遺跡保存全国ネットワーク」「NPO法人伝統木構造の会」「伝統を未来につなげる会」「文化財保存全国協議会」の4つの全国組織がNTT西日本に要望書を出してくれました。このうち、NPO法人伝統木構造の会と戦争遺跡保存全国ネットワークとのNTT西日本への要望書を紹介します。

### 格納庫の内部利用について

NPO 法人 伝統木構造の会 会長 増田一真

私たちは、日本中を挙げて戦った太平洋戦争を記憶する建築(旧海軍工廠鈴鹿格納庫)の『内部利用』を格安につくる方法を考えています。それは、木造の架構とアーチ梁とで耐震補強をも兼ねて内部を活かすやり方です。それは、とりこわす費用が全くかからないうえに、内部利用の費用も、坪数十万円で充分でき、日本の木構造発展にも貢献できます。『内部利用』は、鈴鹿市民の希いであるにとどまらず、日本人全体の希いでもあるにちがいないと深く確信致します。

どんなにすばらしい跡地利用が考えられたとしても『内部利用』案には到底及ばないにちがいありません。それは『負の遺産』を『平和利用によって活用する』計画ですから、世界中から注目され、人々が訪れることとなります。フランスのオルセー美術館が旧駅舎の内部利用として人々に感動を与えているのに匹敵します。用途としてはスポーツや市民活動の諸用途に役立つ施設の他に、災害時の避難の場所にもなります。

そもそも太平洋戦争自体が先進欧米列強に、資源面から追いつめられた我が国が止むを得ず、自衛のために始めた戦争であった事が、多くの近現代史の明らかにしている真相です。あの格納庫で

毎日激しい訓練を受けた、当時十七、八才の少年航空兵たちがどのような想いに耐えて日々をおくったのか、現代の日本人は今思い起こしてみる

必要があると思います。そこには自らの生を全うしたい欲求と、国を愛する熱い想いと葛藤を克服していった過程が伺えます。少年航空兵の親たちを含む多くの日本人も、当時様々の苦難に耐えたのです。戦後、原爆詩集を編んだ人たちの想いや、「きけわだつみのこえ」を残した学徒たちの切なる内面のこえは、日本人が永遠に忘れてはならぬ叫びであると言えます。

原爆を被爆した人たちは、原爆ドームを残そうとしたのだし、学徒たちの叫びが平和憲法をつくりだしたにちがひありません。戦争を記憶する建物を壊すことなく、『内部利用』をさせて下さい。お願いします。

2010年11月30日

### 旧鈴鹿海軍航空隊格納庫の拙速な破壊に反対し、開発計画の再考を求める要望決議

鈴鹿海軍航空隊跡地（三重県鈴鹿市）に現存する3棟の格納庫は、内部に1本の柱もない構造や、多くの扉を同時に開閉するためのレール施設など、当時の格納庫の建築様式を完全に残している重要な戦争遺跡です。また、巨大な3棟の格納庫が連なって残っているのも全国に類例はほとんどなく、大変貴重です。

鈴鹿市は鈴鹿海軍工廠の建設に係る経緯から1942（昭和17）年に市制を発足しています。軍によって市制が施行された日本最初の市であります。戦時中には海軍航空基地や海軍工廠をはじめ、軍事関連施設が全面積の1割近く建設されており、まさに「軍都」としての性格を持っていましたが、その端緒になったのが鈴鹿海軍航空隊の建設であり、格納庫群を中心とするこれらの戦争遺跡を保存・顕彰することは、市の誕生を考える上にも重要です。

ところが現在、開発の名のもとに格納庫群や滑走路跡などを取り壊す計画が進められています。この計画の策定時に、格納庫群の歴史的・建築学的な価値が考慮されたとは思えず、開発計画の進め方に疑問を感じます。良識ある市民団体による反対運動が活発になり、市議会でも計画への反対が3分の1を占めたことも当然と言えるでしょう。

さらに新聞報道等によりますと、NTT西日本は十分な学術調査も行わず、記録保存すらあいまいにしたまま、2010年1月から3月にかけて格納庫群を撤去する決定をされました。これは、市民による運動の高まりを危惧しただけの稚拙で拙速な行為としか考えられず、歴史的建造物に対する見識を疑うものであり、貴社の社会的信用を損なうものであります。

鈴鹿市は、2003年に陸軍掩体（同市三畑町）を国の登録文化財に登録し、市立考古博物館での企画展『戦争遺跡を掘る』（2002年）や各種出版物の発刊など、戦争遺跡の保護・保存・顕彰に早くから積極的に取り組まれてきました。戦争遺跡に対する高い見識は全国的にも評価されていただけに、消極的・傍観的な姿勢が目立つ今回の対応は極めて残念です。

格納庫群は文化財指定や史跡指定の可能性もある貴重な戦争遺跡です。格納庫内部の広い空間は、平和博物館や戦争資料の収蔵庫、アトラクションのオープンスペースなど、多様な活用方法も考えられます。

拙速な格納庫群の破壊には強く反対します。そして十分な時間をとって、格納庫群の歴史的・建築学的価値を考慮に入れた開発計画の再考を要望致します。

2010年10月23日

戦争遺跡保存全国ネットワーク

# 格納庫についてのアンケートから

2010年11月から12月にかけて行いました格納庫についてのアンケートにご協力いただき、どうもありがとうございました。格納庫に対するたくさんの思いが届き、とても嬉しかったです。ごく一部ではありますが、ご紹介します。(※文意を損なわないように一部要約したり、読みやすいように表記を変えた箇所があります)

## (1) 活用方法について

### ○平和資料館

- ・格納庫を生かして当時を再現する博物館にしたらいいと思います。実際に戦争で使われた飛行機の実物大の模型、働く人の姿を再現し、それを間近で見ることができれば、当時のことを興味を持って知ることができると思います。鈴鹿はサーキットやHONDA工場など社会見学に訪れる子どもが多いです。その見学コースの一つになれば効果も上がるのでは。(市内40代男性)
- ・昭和20年、戦後進駐軍が戦闘機を焼いて地下に埋まっているのを掘り出して展示すればいいと思う。零戦、雷電、一式陸攻など。(市内60代男性)
- ・鈴鹿海軍航空隊の資料展示。鈴鹿海軍航空隊は太平洋各地に展開、特にラバウルにて活躍。終戦頃は菊花など特攻訓練等々。防衛省戦史室に資料はあるのでは。(市内80代男性)
- ・総合的な文化施設として活用したい。軍都鈴鹿の歴史をしっかりふまえて平和都市宣言を具体化したい。(市内70代女性)

### ○災害時の避難施設

- ・基本的には「平和資料館」的な活用が望ましいですが、市民全体に貢献できるような緊急時の活用を併用できるものが、今後のメンテナンスとの係わりからいいのでは。(津市70代男性)
- ・格納庫の横の土地も災害時の施設予定地として保存しておくべきである。(市内60代男性)

### ○体育施設

- ・スポーツジム、温水プール、人工壁登り(クライミングウォール)などの健康保健運動施設。人工壁は高い壁が作れる!(津市60代男性)
- ・室内グラウンド、グラウンドゴルフ、ゲートボール場など老人クラブが使える場としても良いと思います。(甲賀市80代男性)

### ○文化・観光施設

- ・鈴鹿フェスティバル等、大勢の市民が集まれる場所を求めている方がいます。スポーツイベントが雨、風の心配なく催すことができる大空間が願ってもない形で作れるのでは。(市内60代女性)
- ・文化ミュージアムのような施設が欲しい。音楽を楽しむ人、演芸や演劇を愛する人たちの稽古場が欲しい。(住所不明 70代男性)
- ・音楽資料が充実した図書館があると良いと思います。SP、LP等も含み、現在のDVD等も市民が見ることのできるスペースを持つ資料館。(東京都40代女性)
- ・ホールを作るなら高さを生かして県内唯一のパイプオルガンのある中ホールを。(亀山市70代男性)
- ・映画の撮影現場にもなったとのことでしたので、このままシネマ誘致の現場としてもおもしろいのではと思った。(市内40代女性)
- ・イベント広場、「道の駅」的な場(鈴鹿の物産と観光)、レストラン。(市内60代女性)

### ○いこいの場

- ・無料で福祉会館みたいな所。家にいる老人が気軽に遊べる無料の場所。例えば将棋や囲碁、おしゃべり等が出来る場所を作ってほしい。公民館は何かの講座に入っていなければ行けないから、誰でも集って行ける所。(市内70代女性と80代男性)
- ・鈴鹿市の住宅が多い所にあり、住民のための施設として残し、自治会の集会所や公民館等がなかなか会合(趣味の会)に貸してくれないので、ぜひそのような施設にもして欲しいと思います。(市内60代男性)

## ○活用の課題

- ・このままでは使用は無理。莫大なりフォーム代が必要になる。資金の調達を考えての上の行動だと思いますが、個人や団体では無理な事業だと思います。鈴鹿市は1億円のお金すら出せない状態にあります。よく検討して下さい。(市内70代男性)
- ・再利用の仕方についてはよくわかりませんが、継続性のあるものを望みます。ハコものだけでは維持費がかかるので有効利用を望みます。難しいとは思いますが。(多気郡50代女性)

## (2) 鈴鹿市やNTTに

### ○市民への公開と慎重な議論を

- ・壊されるまでの経過等を知らなかった。この施設が市民に公開されないまま壊されるのはおかしいのでは？(市内60代女性)
- ・一度破壊すれば復元は不可能。なんとか保存できる方法を見つけたいもの。(市内50代男性)
- ・戦時中、ただ同然で地域住民より国に召し上げられ、その後NTTに払い下げられたのではないかと想像ます。鈴鹿市民の財産地ですので、速やかに市へ返却してもらって当然だと思う。NTTの考えで処分されるのはおかしいし残念！(市内60代女性)
- ・もう少し保存に向けて、市民とじっくり話し合いをして下さい。(四日市市30代男性)

### ○歴史的価値の再検討を

- ・鈴鹿市のみでなく日本の遺産として認識すべきである。(市内50代男性)
- ・軍都の鈴鹿の象徴であり、若い人々にぜひ知らせたいた大切な誇りともいえる三つの格納庫は保存すべきです。行政も力を入れるべきです。貴重な建造物であればあるほど、ぜひとも保存に全力をかたむける姿勢を行政に求めます。(市内70代男性)
- ・格納庫を設計した人に会いたい。ラチス構造がんばれ。(市内60代男性)
- ・戦争を語りつぐ世代も少なくなってきましたので、今後学校教材等に活用する大切なものになることと思います。(市内70代女性)

### ○活用の再検討を

- ・野球場、サッカー場、陸上競技場等たくさんの施設が今、空き地になっていると思います。その他倉庫をはじめ、いろいろな施設棟も建っています。鈴鹿の大学が一部使っているようにたくさんの使い道があると思います。壊すことが本当にいいのか考えてほしい。(市内40代男性)
- ・20万人の市として公園がない。格納庫周辺の森、隣接するグラウンドなど大いに市民に開放して元気な日本を育てる展望ある市行政をお願いしたい。(市内60代女性)
- ・何事も大切に活用されるように希望する。貴重なものはより大切に扱っていくのが本来の行政の役務ではないかと思っている。(市内60代男性)
- ・NTTに対して鈴鹿市が交渉して安く買い上げるべきで、足りない時は寄付をつのつてほしい。(市内60代男性)
- ・市としても、もっと論議を進めるようにイニシアチブをとるべき。(市内70代男性)

## (3) 市民の会に

- ・残してどうしたいかの具体策が欲しい。明確な活用方法が無いなら説得力が極めて弱い。「思い」を「出前の説明会」等で住民に訴える必要があるのでは。当時の軍の写真や持ち物などの展示は格納庫でなくても可能だ。格納庫(建物)を残そうする意味がわからないとwhy?となる人が多いのでは。(市内60代男性)
- ・資金の調達をしなければ、前に進まない。格納庫を有する市街地整備地(17.6ha)は年間の固定資産税を高額支払っているとNTTより聞いております。鈴鹿市に購入してもらおうか、固定資産税をなしにするよう運動して下さい。地権者NTTにこのまま存続を求めるのは無理だと思う。良く考えて行動して下さい。(市内70代男性)

# NTTが格納庫の無償譲渡を提案 鈴鹿市は断る 昨年1月の会議で

格納庫取り壊しの方針はちょうど1年前の昨年1月、鈴鹿市、NTT西日本、都市再生機構(UＲ)3者の会議で決まった。その議事録を情報公開により入手したところ、NTTは格納庫3棟を無償で鈴鹿市に譲渡することを提案、しかし、市はそれを断っていたことが分かった。

NTTが提案したのは、1月15日の会議。「社内は未調整であるが、仮に旧格納庫について土地・建物も無償で市に譲渡可能という判断が出た場合、市として譲渡に応じることは可能か」と市に質した。市は1週間後の22日の会議で「仮にNTT西日本から土地も含めて体育館利用していた旧格納庫を無償で寄付する申し出がされたとしても鈴鹿市は対応できない」と断った。

ここでいう体育館とは、第5格納庫に隣接してある旧海軍の整備工場で、NTTが体育館に改造していた建物をさすと思われる。格納庫と取り違えて回答したらしく、議事録は「取得した際に補修や備品等のために必要な大きな費用が必要であり、市内の既存体育施設の補修費等を圧迫することになるから、市として負担できないと判断した」と記している。

また、URが「3連の格納庫群を公園施設として保存する考えがあるか」と質問したところ、市は「建物の安全性が確認されておらず、また、活用方法も無いことから、その考えはない」と回答していた。

安全性をみずから調査確認もせず、また、活用法の検討もいっさいせず、せっかく無償でくれるというものを断っていたわけだ。受け取って財政状況を見ながら、時間をかけて活用を考えていく、という選択もあった。構造設計の第一人者といわれる建築家、増田一真氏は「耐震補強は可能。壊すより活かして使う時代」としており、大きな財産、大きなチャンスを放棄したといえる。



情報公開制度で得た議事録

## 編集後記

いよいよ大きな局面を迎えた。旧海軍格納庫が取り壊されることが秒読み段階となり、強い危機感とともに破壊が悪夢であってくれという願いで今胸がいっぱいである。短期間の署名活動を通して、格納庫の存在すら知らなかった人たちにも知ってもらい、私たちの市民活動が大きな運動として社会に大きく認識されていったことは大きな成果の一つである。これまで鈴鹿市は文化水準が比較的高い自治体と思ってきたが、鈴鹿市誕生の象徴というべき格納庫を保存しようとしめない鈴鹿市の頑なな姿勢に、この認識も変えざるをえない。

## 鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代表 加藤二三子、竹内宏行

〒510-0254 鈴鹿市寺家1-2-47

電話 059-388-6508

メール ta818hi@mecha.ne.jp

HP <http://www006.upp.so-net.ne.jp/asao/peacesuzuka.htm>